

すずらん

作品展示会

芸術の秋

全体参加アート



とても自分でも良く作品が出来たと思います。スタッフMTさんをモデルにして良く出来て小笠原薬剤部長賞をもらった事です。(T・I)



今年一月に20年買っていたミーチャ(猫)が死んでしまったのでテーマ「生物」と聞いて猫にしようと決めました。しかしまさか優秀作品賞を頂けるとはとても恐縮です。ありがとうございました。(A・I)



僕は去年、桜の絵を描いて何ももらえなかったのでこっちは賞を貰いたいと思って描きました。賞を貰えたことはとても嬉しかったです。(T・N)

作品展示会でスタッフTさんを書いた。スタッフが良い厚紙も良い。スタッフ良いでしょう。スタッフは変わらずずっと欲しい。(M・N)

2回目の作品展示会です。去年に引き続き手芸での参加です。思いがけず、私の好きな花「アジサイ」で受賞されびっくりしています。(K・N)

白鳥は、これまでの作品作りの経験を参考に楽しみながら仕上げました。胴体バランスが難しく、やりがいを感じ、加賀部長賞を頂くなど特別なイベント、ありがとうございました。(M・H)



スポーツの秋



Sさんおすすめ本

読書の秋

今回紹介する本は、小川糸さんの「ツバキ文具店」です。
鎌倉で文具店を営む傍ら、手紙の代書を請け負う主人公：鳩子。依頼主や自身のままならない人生に寄り添い、思いが届くようにと心を込めて文字を綴る姿が印象に残ります。物語に登場する手紙の数々からは、誰かの幸せを願う温もりや安らぎが伝わってきて、素直で穏やかな気持ちになれます。

興味のある方は是非読んでみて下さい。

ぐっさんの小話

歴代ハプスブルク家、第一の美女エリザベート皇后の生涯を描いた、ウィーン産ミュージカル『エリザベート』で憎々しい仇役として登場したのがゾフィ大公妃である。若い嫁など到底太刀打ちできないゴッドマザーだった。そんなゾフィといえども、かつては、初々しい時代とロマンスがあった。19歳でバイエルンから嫁いできた彼女はウィーン宮廷の堅苦しさを、なかなか世継ぎのできないプレッシャーに悩んでいたが、当時ここには彼女と同じく半分余所者という立場の6歳年下の甥（夫の姉の子、皇帝の孫、フランス人の父）がいた。甥は父親に問題があったのか完全なハプスブルク家の一員とは見られていなかった。

1824年の頃です。ゾフィは初め姉弟のように、年月が経つうちにもっと親密に、オペラ、舞踏会、謝肉祭といつも連れだって出掛けた。だが甥は病に罹りゾフィの看病も虚しく21歳で亡くなった。この甥は何者なのか・・・。

彼は『フランシ・ヨーゼフ・カール』
つまりナポレオンⅡ世なのである。

編集後記



デイケア新聞198号をお読みいただきありがとうございます。

11月の行事は作品展示会でした。今回のテーマは「生物」。

ペーパークラフトや張子、絵画などの様々な作品が展示されました。

手形アート、書道アートもきれいでした。来年の作品展示会も楽しみです。

〒031-0813 青森県八戸市大字新井田字松山下野場7-15

TEL: 0178-25-0011 FAX: 0178-25-6721

医療法人 清照会 湊病院デイケアセンター